

## 神奈川県作業療法士会ニュース171号 目次

- |                           |                                     |
|---------------------------|-------------------------------------|
| 1 巻頭言                     | 8 研修会案内                             |
| 2 認知症の作業療法 前編             | 9 理事会抄録                             |
| 4 スポットライト OTの生き方          | 10 求人案内                             |
| 5 WFOT企画委員会 ご協力のお礼と報告 その1 | 11 第15回 神奈川県作業療法学会 プログラム案内          |
| 7 各部委員会報告                 | 12 手作りおもしろdevice・activityコンテスト／編集後記 |

## 巻頭言

第15回神奈川県作業療法学会  
プログラムのご案内

プログラム企画委員長

都筑区医師会訪問看護ステーション 富山 晋



新年を迎えいよいよ神奈川県作業療法学会も近づいてきました。今回の学会は東戸塚にある横浜リハビリテーション専門学校が会場になるため卒業生代表として学会の企画に参加させていただきあっという間に1年が過ぎようとしています。昔は学生として通っていた場所に今度は学会の企画委員として通うことになり時間の流れの早さを感じています。プログラム企画委員の中には学校の卒業生が多く参加しており、みんな母校でやる学会ということで気を合を入れて準備をすすめてきました。

今回の学会では「原点回帰」をテーマとして掲げていますが、原点回帰とは初心に戻るとか自分の原点である場所に帰るといった内容の意味があると思いますが、ただ単に原点に戻るだけではなく、基本に立ち返りそこからまた再構築していきながらより良いものを作り上げていくということにつながるのではないかと思います。

作業療法の世界でも同じようなことが言えるのではないのでしょうか？新しいことも大事ですが一度原点を振り返りそこからまたさらに可能性を広げていくことが結果的に対象者により良い作業療法として反映していけるのではないかと思います。

特別講演では矢谷先生と長谷川先生というまさに

作業療法の原点ともいえるべき先生方のお話を聞き原点について見つめなおすいい機会になるのではないのでしょうか。またシンポジウムは今回身体分野・精神分野・発達分野の3分野に絞りましたが、身体分野では最新の研究に基づく注目の治療法について、精神分野では精神障害のある方の病院から地域への生活支援について、発達分野では一貫性と継続性ある支援体制の構築に向けてOTができることについてそれぞれお話ししていただくことになっています。またランチョンセミナーではパワーアシストハンドというロボットスーツを応用した手指機能回復の製品について実際に触れてみることでできる機会を作ることができました。

このように原点を振り返りふまえながらも最新の研究や製品についても一度に学ぶことのできる学会はなかなか貴重なものではないかと思います。ベテランは原点に立ち返りながら、経験の少ないOTは先人たちが築きあげた作業療法の原点を改めて知るとともに、それぞれがこれからの作業療法について何かを得るきっかけになってくれたらと思います。ぜひ、みなさん学会に足を運んで作業療法について一緒に考えていきましょう！

## シリーズ「認知症の作業療法」 ベテランOTへのインタビュー 認知症の作業療法 前編

JICA日系社会シニア・ボランティア  
作業療法士・ケアマネジャー  
浅海 奈津美 先生

ーはじめに、浅海先生が認知症の方と関わるようになった経緯について教えてください。

### ○明確ではなかった「認知症の作業療法」

東京都老人医療センターにいた頃は、脳卒中中でも比較的若い70歳以下の方と多く関わっていました。その当時日本で数少ないSTや心理職がリハビリテーション部門で働いている施設だったこともあり、高次脳機能障害（当時はそういう言葉も流通していなかった）の方が多く外来通院されていました。デイサービスとかデイケアという概念が日本で広く使われるようになる以前のことで、欧米から直輸入の「デイホスピタル」という名称で退院後の方々のリハビリをしていました。当時、認知症は「痴呆」と呼ばれていましたが、私の現場では脳血管性の認知症の方も、今思えばアルツハイマーを合併しておられたような方も一緒に、集団場面を活用しながらさまざまなことをしていました。河本のぞみさんが、おそらく日本のOTとしては初めて「痴呆老人の作業療法」の冊子を書かれたころです。

### ○アメリカでの「認知症の作業療法」との出会い

その後、東京都職員の研修制度を利用して半年間米国に行きました。バブルの時代です。テーマは高齢者



浅海奈津美 先生

profile

OT養成校卒業後、都内の病院、特別養護老人ホーム等で作業療法士として勤務。2000年より、神奈川県内の私立大学で教鞭を執り、老年期および地域作業療法に関する教育・研究活動に携わる一方で、当会の理事としても活躍。その後は山谷地区（俗に言うドヤ街）で生活する高齢者に対してケアマネジャーとしての支援を行う。

現在は、JICA日系社会シニア・ボランティアの一員として、南米パラグアイに赴任中。移住第一世代の高齢化が進む日系人コミュニティにおいて、アドバイザー的立場としての活動を展開している。

著書である「老年期の作業療法」（守口恭子 健康科学大学教授との共著 三輪書店）は、老年期作業療法の専門的視点と温もりの溢れた人間の視点の双方を併せ持つ良書として、作業療法学生のバイブルとなっている。

のOTということでしたが、米国OT協会の助けもあり、広く大学の研究室や精神科のOTも含め、様々な分野のOTを見学することができました。米国では、アルツハイマー病は非可逆的な疾患なので治療の対象ではなく、従って、医療保険から報酬を得ている、普通に働くOTは、認知症に関わる機会は少なく、わずかに研究者が研究費で認知症の作業療法を試みている状況でした。

研修の一環で、当時米国で認知症について作業療法や老年学の専門誌で論文をよく発表されていたベティ・ハッセルカスという、大学教授であるOTを訪ねる機会がありました。彼女は、ナラティブアプローチ、人類学の視点での論文を得意としており、そのフィールドワークの現場である認知症の施設を見学させていただくこともできました。参与観察しながら作業療法サービスも提供していて、私としては初めての認知症の作業療法の現場の体験となりました。彼女はその後『Meaningful Occupation』という本を出版されました。学術書ではありませんが、高齢者の作業療法と自分の思索とがごちゃ混ぜになった、とても面白い本でした。ナラティブアプローチの研究者は文章が巧みですね。私は当時、出版社に「翻訳しませんか」と問い合わせたのですが、「これは日本では売れません」と言われちゃいました。今だったらタイトルで売れているかもしれませんね。

私とすれ違うようにして、守口恭子先生（現・健康科学大学教授）が別ルートでやはり半年、米国で認知症ケアの研修をされていました。後でその内容を伺う機会があり、彼女が体験し学んできたことの深さに、自分との差を痛感したものでした。

### ○いよいよ実践「認知症の作業療法」

数年後、大学院で社会学を学び、その後渋谷区の特別養護老人ホームに勤めました。本当の意味で認知症の方との関わりを持ったのはそこからですね。後にグラウンドセオリーの関係書を数多く出され、OTにもおなじみとなった木下康仁教授にしばられて学んだ高齢者ケアをめぐる社会学的発想が、実際のケア場面で有効なのかを試してみたい気持ちがあり、挑戦するような思いでした。介護保険制度以前の話です。

車いすのシーティングから併設の通所部門での作業活動まで自由にいろいろやらせてもらいました。週に数回、パラレルな空間で、入所中の認知症の方を対象に作業活動のセッションを行う機会をもちました。個々人の医学的情報も乏しく、白衣も医学的検査や評価もなじまない現場環境で、事故以外のあらゆる失敗をしながら思考錯誤する毎日でした。“こうやってみたらうまく行った”とか。“前回やったことを忘れてしまう方は、その場で作品が完成しないと、その人の中での達成感がない”とか。その当時のお年寄り（20年前）ですから、みなさん縫い物などが達者で、どこが認知症なの？みたいな巧みな作品を作る方から、すぐに離席しては戻ってくるような方々まで様々でした。作業の途中で歌い出しちゃう方もいて、いつの間にか民謡大会になったりして、楽しかったですよ。

入所する日に家族と面接する機会をもって、生活歴や作業歴を伺い介護職にも伝えるようにしました。今で言う「意味のある作業」を少しでも提供するためです。それにしても最近よく「意味のある作業」と言うけれど、OTが使う文脈でいったい「意味のない作業」なんていうのがあるのか？わざわざ「意味のある」と言わなければならないのは、ちょっと嘆かわしい状況だと思っています。

－認知症の方と作業をするところに関わることで自分が難しいと悩むこともあるのですが、浅海先生の場合はいかがでしたか？

#### ○「意味のある相手」がいることの大切さ

作業どころではない方も、もちろんいらっしゃいました。1番記憶に残っているのは、ある女性の方です。とにかく、1人になるとものすごい金切声をあげるのです。ご近所からすると「あの施設はどんな虐待をしているんだろう」と思うくらいに。本当に耳をつんざくような金切声をあげるのだけれど、誰かが話しかけると、表裏を返したみたいにケロっと普通の話し声で話をするわけです。それを見ていて、ご自身からみた世界の中で1人にされていることの不安の深さを感じました。誰でもそうですが、特に見当識も崩れている認知症の方にとっては「誰かがいる」ことがご自身の存在や世界を確信するためには大事なことなのだと痛感しました。意味のある相手、それは必ずしも家族でなくても、その時々で誰でもいいのだけれど、関わる人が「いる」ことが大事です。その方に対しては、ナースステーションに居てもらうとか、皆で介護の工夫もしたけれど、施設の限界もあってそれ以上のことは出来ませんでした。その方のことは、今でもよく思い出します。めちゃくちゃうるさくて覚えているというのもあるんですけど、何より、誰かが「いる」「いない」ことでの、その変わりようには、人間について学ぶところがありました。

－特養の後には、大学の教員をされていましたが、認知症の方と関わる機会はありましたか？

#### ○認知症のある本人の話を聞く

横浜市内の特養で、お年寄りの話をとことん聞く研究活動を月一回、2年程続けました。これは守口先生と一緒に、というか先生の誘いがあって始めたことです。特養で働く中で、多忙さにかまけたり、またそういった発想が自分に不足していたということへの反省から、きちんと時間をかけて1人の方を知る機会をもちたいとの気持ちがありました。1人の方の話をとことん聞いて、その話をまとめて、施設の職員さんに読んでもらう。この方はこういうことを思っているみたいだ、ということを職員さんに知ってもらって、そこでの関わり方により影響があるといいなと思いました。話がどこかへいってしまう人もいし、ほとんど意味のあることが聞き取れない（こちらが意味をとれない）

こともあるし、驚くほど色々な話が出てくる人もいました。それは、その方の障害レベルの問題もあるし、こちらの聞き方にもよります。またそのときどきで、現れてくる話が違うこともあります。自分の聴き方が巧みだったとは決して思いませんが、どの方も、自分の話を誰かにきちんと聴いてもらいたいのだということが、何よりも強く伝わってきました。

#### ○認知症の方が「特別」ではない

この作業を通して自分が得た結論は、認知症の方だからといって特別なことを考えている訳ではないんだ、という事です。認知症になったからといって特殊な人になったわけではないというのが、やっと実感としてわかったのです。その時に初めてわかったというのが、我ながら呆れちゃうのだけれど。

だから認知症の方への作業療法も、認知症だからといって特別に考える必要はないと思っています。もちろんOTをする上で疾患の特徴を考慮して、個々に焦点の定め方や何が有効かの検討をつけアプローチの戦略を練る必要がありますが、でも、認知症の方だからといって特別に構える必要はないのだ、ということは実感としてよくわかりました。

#### ○当事者が中心

同じころ、2004年に、京都で行われた国際アルツハイマー病協会国際会議に、若年性認知症の当事者であるクリスティーン・ボーデンさんが来日、講演しました。彼女は、認知症だからといって何もわからないわけじゃない、というメッセージを自身の著書で伝えた方です（『私は誰になっていくの？ーアツルハイマー病者から見た世界』桧垣陽子訳、クリエイツかもがわ発行）。その会議の場で、日本の認知症当事者の方々もおそらく初めて専門家の前で自らの障害体験の話をされました。認知症当事者だけで構成されるシンポジウムもありました。それまでは、認知症といえばどのように介護するか、という話ばかりでしたが、ここでやっと、認知症の人を中心に考えるという視点を持たないと片手落ちだということが、専門家の間の共通認識になったように思います。もちろん、介護者側への支援も工夫も必要なことには変わりはありませんが。その国際会議は、認知症のケアの流れの、まさに転換点になったと思います。

認知症の方の話を聞く作業も、このような当事者中心の流れや、診断技術の向上やアリスレプトの出現など、丁度その頃同時多発的に起こったさまざまなこと、また守口先生その他の認知症ケアのすぐれた実践家の活動からの影響があって、行ったことでした。

－日々の臨床では、一人ひとりとじっくり関わることで疎かになることもありますが、やはり、その方の想いを知ることは何より大切なことですね。

次号に続く（文責：地域リハビリテーション部 吉田 河村）



## 「スポットライト～OTの生き方～」 パパさんOT編

第一弾に引き続き、今回も子育てをしながら働いている方の特集です。

3か所の精神科病院を経て、現在はT病院に勤務しているパパさんOTのAさん。ご家庭の状況に合わせて勤務スタイルを変え、看護師の妻と楽しく賑やかに1男2女の子育てをしている育メンパパの仕事と家庭の両立の約10年に迫ります！

Aさんの家族構成：本人（作業療法士・44歳）、妻（看護師・35歳）、長男（小4・9歳）、長女（幼稚園年長・6歳）、次女（2歳） ＊いずれも2014年11月現在

現在、職場では精神療養病棟の担当OTとして勤務。家庭では看護師の妻と共に、日々悪戦苦闘しながらも、楽しく賑やかに1男2女の子育てをしています。仕事と育児の両立が始まったのは、長男が誕生した約10年前。最初の職場で主任となり、初めて管理業務に携わっていました。日々の臨床に加え、学生指導や院内各種会議の出席から部署内職員の人事考課面談まで、自身の力不足を感じつつも周囲の同僚たちに支えられ、また妻が産前産後を経て育児休暇中だったこともあり、何とかこなしていました。

それから約1年後、OT開設の責任者として新たな職場へ移りました。転職を決めた理由の一つは、院内保育室を利用できたことです。妻の職場復帰を目前に、地域で長男の預け先を確保できずにいたため、我が家の保育問題は一気に解決へ向かうことになりました。しかし、預け始めてみるとそれ以上の収穫がありました。地域の施設に比べて小規模ゆえ、保育士さんの目が常に行き届き、とても大きな安心感を得られたことです。子どもの熱発や私の残業があっても、度々柔軟に対応してもらえたことでとても助けられました。また、院内を散歩しながら愛嬌をふりまく子どもの姿は、私が新たな職場に溶け込む上で潤滑油の役割を担ってくれました。特に部署の同僚達からは温かく見守られ、可愛がってもらえたことは、普段から妹たちの面倒をよく見ってくれる長男の現在につながっているように思います。

長女の誕生と転居に伴い、長男の院内保育室通いは2年半余りで終わりましたが、その後も同僚たちの子どもたちが通い始めました。また、少人数保育の利用経験から、長女、次女は3歳までの保育を『家庭保育福祉員（通称・保育ママ）』にお願いしました。長男、長女の4歳以降は、従来から保育園に似た『預かり保育』を実施している幼稚園に入れて、毎日夕方6時近くまで面倒を見てもらっています。

これまで子育てを通じて得られた知恵や経験は、仕事の上でも大いに役立ってきました。父親という立場を知ったことは、臨床家として患者理解の一助となっていると思います。子どもを持っても働きやすい職場作りへの取り組みには、同僚たちの理解が不可欠でしたが、私の在り様はそれに多少でも貢献していたと信じています。

現在、私には子どもの養育だけでなく、両親の介護問題も加わりました。将来を楽観してはいませんが、ここで得られる経験も必ず仕事に生かすことができるものと考えています。



### 【あとがき】

今回はパパさんOTの仕事と育児の両立について特集しました。ご感想やご意見がありましたら、県士会福利部<fukuriアットマークkana-ot.jp>までお寄せください。

(なおこの記事は県士会WEBサイトにも掲載していますので、そちらもご覧ください)

文責：福利部 生田病院 勝山基史

## WFOT企画委員会 ご協力のお礼と報告 その1

第16回世界作業療法士連盟大会では、ここ神奈川での開催にあたり、世界への「おもてなし」「日本のOTの紹介」をコンセプトにした企画を行いました。この委員会では沢山の神奈川のOTの皆様にご協力を頂きました。改めて御礼とともに企画の紹介をいたします。

### ①暮らし展示

障がい者（脳血管疾患・筋萎縮性側索硬化症）の在宅生活の空間演出を行いました。

片麻痺の自助具紹介や車椅子、視線入力による環境制御装置など、国内外のOTの皆さまに多く来ていただくことができる企画となりました。そして開会式の6月17日には天皇皇后両陛下にご内覧頂き、在宅領域における作業療法士の役割や住環境の工夫における作業療法士の役割の紹介を行うことができました。

ボランティアは総勢30名。ご協力下さったOTの皆様をご紹介します。



暮らし展示 自助具紹介



両陛下ご内覧直前の様子

皆様ご協力本当にありがとうございました（＾＾）

安藤慎悟さま、磯朋代さま、落合翔子さま、大寺亜由美さま、金山桂さま、小林亜香里さま、佐々木秀一さま、名古屋和茂さま、森田千晶さま、花田健二さま、牧山大輔さま、山岡文士さま

## ②写真展

日本・世界の作業療法の魅力を写真で表現しよう！という企画を行いました。

写真展はコンテストとして「笑顔の部」「作業の部」の2部の投票制とし、500を超える投票数から4つの作品が選ばれました。

この企画では県内の学生ボラさんにご協力いただきました。

ありがとうございました。



写真展

横浜YMCA専門学校の学生のみなさま

## ③文化交流

「日本の文化」を紹介する企画を行いました。開会式後のウェルカムレセプションの時間からこのブースは注目されており、着物の着付け体験・呈茶は常に満席となりました。また書道・囲碁将棋・さくらほりきりさん協賛の和紙工芸・折り紙やけん玉など多くの催し物が開催されました。様々な言語と笑顔が絶えないブースでした。楽しかったですね（＾＾）

このブースのOTボランティアは県内外含めて総勢50名！皆様本当にありがとうございました。



文化交流（着付け体験）



文化交流（呈茶）



文化交流（書道）

### 特別ゲスト 浅井憲義先生

田中ゆかりさま、浜田薫さま、石井利幸さま、稲垣陽子さま、臼井美緒さま、遠藤佳央里さま、大久保桃子さま、葛西美奈子さま、黒瀬博子さま、斎藤嘉子さま、白戸力弥さま、関根恵理子さま、菅沼さま、鯉田佐祐里さま、前場洋佑さま、田中秀宜さま、中沸美代子さま、西則彦さま、野田綾子さま、藤田恵子さま、三森夏帆さま、宮本里香さま、村橋大輔さま、望月強併さま、森下賀子さま、矢野美来子さま、山田絵美さま、増田理恵さま、柳沢芙裕子さま

独立採算プログラムソーシャルイベント神保武則委員長

④障害者スポーツ⑤OT活動紹介⑥作業所紹介・物販企画は、次号にてご報告致します。

開催終了からはや半年、あっという間に日常の臨床業務に追われる毎日で忘れつつありますが、この経験はプライスレス！日々の臨床だけではなくなかなお話する機会のない大御所先生や企業さん、他施設のOTの皆様とご一緒できる貴重な機会となりました。本当にありがとうございました。

### 企画委員会

#### 副委員長（企画長）

高橋香代子（北里大学）：文化交流・暮らし展示

田中 秀和（横浜新都市脳神経外科病院）：暮らし展示

鈴木 瞳（横須賀市療育相談センター）：写真展

三神 敬之（東京大学医学部付属病院）：障がい者スポーツ

佐藤 隼（さがみりハビリテーション病院）：OT活動紹介

沼田 一恵（横浜らいず）：作業所紹介・物販

委員長 酒井由香里（横浜新都市脳神経外科病院）



# 各部からの報告

## ウェブサイト管理委員会

ウェブサイト管理委員会（2015年1月号）

### 刷新！県士会ブログの更新情報

よこ太：県士会サイトのさあ、右側にある県士会ブログの更新情報の表示方法が変わったね。

ハマ子：うん、新しい記事順に表示される今の方があたしは好き。

よこ太：ぼく、ぜんぜん更新していないから、ブログの存在が消えちゃった...（涙）

ハマ子：あれ？あんた、何か担当してたっけ？

よこ太：うん、秘密だけどね。更新しないと表示されないなんて、この方法はひどいよ！！（怒）

ハマ子：いやいや、更新しないあんたが悪いのよ。

よこ太：（'・ω・'）

ハマ子：みんな時間がない中を工夫して、時間を作って記事を書いて更新して、作業療法の発展のためにがんばってるんだよ。そういったがんばっている人のブログに閲覧者が増える、今の表示方法は真っ当だと思うな。

よこ太：（'・ω・'）（'・ω・'）

ハマ子：「しょぼーん」を使って可愛いじけてもダメよ～ダメダメ

よこ太：うっ...まさかのハマ子ポケッ！

ハマ子（赤面）：...おっほん。えーと、右側の県士会ブログの表示欄では、各記事が更新順に表示されており、欄内をスクロールすると合計で30個の記事が順番に表示されます。県士会ブログの閲覧には、この表示欄を活用してください！

（文責：ウェブサイト管理委員会）

### 平成26年11月アクセスランキング

- 1位 作業療法Tips & PDF 22001件
- 2位 講習会・研修会 19708件
- 3位 必見！OTのすご技・アイデア集 16087件
- 4位 求人情報掲載板 13813件
- 5位 月刊よっしーワールド 6682件

### 平成26年11月県士会ブログランキング

- 1位 ウェブ管的知恵袋 312件
- 2位 おやじOTたちのソネット 251件
- 3位 つぶやきshow!! 225件

更新件数：59件 訪問者延べ数：21733人  
Kanaからの手紙発行回数：26回 登録者：185名  
Twitter (ID:kaotwebkan)：フォロアー266名

## 福利部

### 職場見学会 身体障害分野編

10月28日に『連携』をテーマに景翠会 金沢病院に行ってきました。景翠会は病院・老健・訪問事業所等幅広く展開しております。

当日は4名参加され、まず阪井先生に講義をして頂きました。

講義内容として、他施設や病院内での他職種との連携方法や工夫を紙面や口頭にて詳しく説明して頂きました。また、講義後は病院内を見学させて頂き実際にDrやNrsと連携しているカルテを見せて頂くなどとても参考となりました。

質疑応答では、各セラピストが日々悩んでいる事に対して阪井先生と参加者全員で考えていき様々な意見が飛び交いました。連携を深めることにより職場の質の向上にもつながると思います。連携は仕事上不可欠なものであり、連携の大切さを改めて考える良いきっかけとなりました。

文責：池嶋



### 第2回職場見学会 精神障害分野編

今年度より福利部職場見学会班では内容を大幅に変更し、より魅力的な内容に変更しました。『各勉強会・講習会とのコラボレーション』をテーマに、講習会・勉強会で講師をされている先生方が勤務されている病院・施設を見学させて頂きます。講習会・勉強会で知識・技術を学び、そして実際の現場を見学して頂きより知識・技術を高めて頂ければと考えています。

今回は曾我病院でご活躍されており、かつ小田原OT勉強会の会長であります佐藤良枝先生にお願いさせて頂きました。内容としましては、認知症に対する作業療法プログラムを実際に見学させて頂き、その後は評価の重要性・視点について講義やADL維持・能力と特性の発揮・生活障害とBPSDについての事例紹介をして頂きます。実際のプログラムを見学させて頂けるという、またとない機会ですので多くの方の参加をお待ちしております。

開催日時：2015年2月6日（金）

開催場所：公益財団法人 積善会曾我病院

開催時間：受付時間13：30～ 開始13：45～終了17：00

定員：7名

申し込み方法やその他詳細は県士会HPに掲載しますのでご参照ください。

文責：福利部職場見学会班班長  
湘南鎌倉総合病院 池嶋 孝二

## 教育部

### ○連載!

県士会ウェブサイトから質問ができます!

### 「お届け!生涯教育制度、あれもこれも」

「お届け!生涯教育制度、あれもこれも」は、生涯教育制度関連の情報を毎号少しづつお伝えしています。

さて、本年も始まりました。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

まだまだハレのお正月気分の延長かもしれませんが、少しづつづの平常に戻していきましょう。

今回は今年度のまだ間に合う生涯教育制度関連の研修会をご案内します。

#### 1. 今年度の生涯教育制度関連の研修会開催情報

\*申し込み等詳細は県士会ウェブサイト、これまでの

県士会ニュースチラシをご参照ください。

また、締め切り後も受付可能なものもありますのでお問い合わせください。

#### ①現職者共通研修

テーマ:「事例検討」・「事例報告」 2015年2月22日(日) ウイリング横浜

\*事例報告会として実施します。

#### ②: 現職者選択研修:

・身体障害領域 2015年3月8日(日) ウイリング横浜

研修会、生涯教育制度に関して何でもご質問ください。

県士会ウェブサイトからも質問ができます。

教育部 奥原孝幸(昭和大学)

045-985-6500 (代), kyoiku@kana-ot.jp

## 地域リハビリテーション部

### 《研修会開催予定》

「ALSコミュニケーション支援講習会」3/1

於: 横浜リハビリテーション専門学校

※今年度より訪問リハビリテーションに関する研修会等は全て神奈川県訪問リハビリテーション協議会が企画・運営いたします。開催情報は別途会員の皆様に周知いたします。

### 《生活行為向上マネジメントの普及活動について》

「生活行為向上マネジメント」を普及するため、各施設・事業所にて説明会を実施いたします。ご希望される場合は詳細をお知らせいたしますので、必要事項を記入のうえ、下記宛にEmailにてご連絡ください。

(現在実施施設は7施設です)

宛先: chiikireha@kana-ot.jp

地域リハビリテーション部 木村宛

件名:「生活行為向上マネジメント説明会希望」

内容: 1) 所属施設名

2) 所属施設住所

3) OT部門代表者

4) 窓口担当者

5) 連絡先TEL

6) 連絡先Email

7) 所属OTの人数

8) 希望日時(複数指定)

### 《地域ケア会議に出席された会員の方へ》

地域包括ケアシステム構築に向けて各市町村の動きが徐々に始まっております。その一つに地域ケア会議がありますが、既に地域ケア会議に出席経験のある会員がいらっしゃるいましたら、地域リハビリテーション部(chiikireha@kana-ot.jp)にご連絡をいただけますと幸甚に存じます。これは情報収集を目的としたもので、今後の県士会活動に反映したいと考えております。ご協力よろしくお願いたします。

文責: 地域リハビリテーション部 木村

## 研 修 会 案 内

### 📍実践! 認知症ケア研修会2015(横浜会場)

主催: 日本通所ケア研究会事務局

日時: 2015年3月15日(日)10:00~17:00

場所: ウイリング横浜

詳細URL <http://www.tsuusho.com/ninchisyokea/>

参加費: 10,000円(税・資料代込み)

申込み締切: 2015年3月14日(土)

### 📍健康生活リハビリシリーズ第5回

「各対象者のタイプ別の作業(活動)選択(最低100種類以上)」

主催: 健康生活リハビリ研究会

日程: 2015年2月1日(日)

場所: 茅ヶ崎市勤労市民会館(茅ヶ崎駅下車)

詳細URL: <http://ameblo.jp/kenko-seikatu-reha/>

参加費: 3000円

定員: 20名

申込み締切: 2015年1月20日(火)まで



## 理事会 報告

### 平成26年度 第4回 一般社団法人神奈川県作業療法士会理事会 抄録

日 時：平成26年11月11日（木）19：00～21：10

場 所：神奈川県作業療法士会事務所

出席理事：渡邊、中西、澤口、福留、野々垣、奥原、出口、吉本、木村、鈴木（久）、沼田、三浦、作田、内山、鈴木（孝）

委任理事：錠内 出席監事：浅井、清宮

そ の 他：小峰（広報部：ニュース編集班）、酒井（広報部：対外広報班）、三森（webサイト管理委員会：HP担当）、名古屋・井戸川・本郷（事務局：書記）

#### ●事務局（澤口事務局長）

##### 1）会員派遣依頼

###### ①川崎市介護認定審査会委員

任期：H27/ 4/ 1～H29/ 3/31

審査会の開催：原則として隔週開催

推薦期限：H26/12/26

依頼人数：3名（高津区・多摩区・麻生区）

⇒鈴木美鈴氏、名古屋和茂氏、湯澤大輔氏 にて申請

###### ②横浜市障害支援区分認定審査会委員

任期：H27/ 4/ 1～H29/ 3/31

推薦期限：H26/11/28 依頼人数：1名

⇒近藤愛子氏 にて申請

###### ③H26神奈川県介護予防従事者研修会講師派遣

（介護予防市町村支援事業に関連して）

・講義内容：認識機能低下予防・支援

講師：金山桂氏（横浜YMCA学院専門学校）を推薦

##### 2）OT協会関連

OT協会50周年記念誌制作にあたり、各県士会の下記情報提供の依頼あり。事務局にて県士会の歴史を記載した資料等を提供するなど対応中

##### 3）会員管理

・休会・復帰制度について

規約文書・申込用紙などが完成。次年度4月からの「休会」を希望される正会員の方には、H26年12月31日までに必要書類を提出されたい（事務局補足：今期に限り、平成27年1月31日まで締切を延期）。周知は県士会ニュース・webサイトで行う予定。

##### 4）検討事項

・公益社団法人化に向けて

公益法人化へ向けたスケジュール案が三役より提案がある。

2015年 総会 公益社団法人を目指すことを発表

（2015年度中 新定款の作成）

2016年 新定款に関するパブリックコメント 申請準備

2017年 公益社団法人化

※2016年以降は、間に合えば、前倒しは可能

現状での財務部や事務局への負担、マンパワーの問題を考えるとすぐに公益化していくのは難しいのではないかという意見があった。⇒まずは組織改編を進めていき、公益化に向け組織を整えていってはどうか。2月の理事会で継続審議。

・組織改編案について（三役より）

公益化を見据え、一案として組織改編の提案があった。

⇒2月の理事会で継続審議。

・2015年度役員選挙及び総会等準備について

##### i）投票権について確認する

会員規定により正会員の権利として「役員の選挙を行える」とあるが、定款の中で「総会は代議委員が参加」であり「選挙は総会で実施」であるため、投票権は代議委員にのみある。表現の紛らわしさあるため会員規定の書面を改訂する。来年度の事業に組み込んでいく。

##### ii）選挙管理委員

選挙管理委員5名選出予定だったが、名簿提出が本日に合わなかった。後日、理事MLにて審議とする。

##### iii）総会日程を検討 平成27年5月下旬の土日にて調整中。

##### iv）日本作業療法士協会と神奈川県作業療法士会との関係に関する協定書について：47都道府県委員会規程（案）による。

各県士会の個性が失われる事が懸念される。それぞれ個々に独立している法人・公益団体が日本作業療法士協会の傘下に入る事ができるかも不明確。主に以下5点について先方に確認を取ってから協定の是非について今後も継続審議していく。

\*協定を組むことによって神奈川県士会での動きにどのような制限が出るのか。

\*運営費はどの団体が負担するのか。

\*協定を結ばない時のデメリットはどのようなものか。

\*協定を解約する場合はどのような状況になったときかの明記があった方がよいのではないかと。

\*規程第3条にある「個人情報に関する覚書」はどのようなものとなっているのか。

補足）神奈川県士会では入会の際に「個人情報の使用は県士会内の活動に限り使用する」と入会届に記載があり、書面にて個人情報の使用を承諾して頂いている。もし、「協定書」を通じて、OT協会でも当会会員の個人情報の使用が見込まれるのであれば、「個人情報了他団体へ渡す際の会員に向けての同意が必要」となるため、神奈川県士会の約款も改定の必要性が生じるのでその内容を詳細にお聞きする旨である。

#### ●財務部（野々垣理事）

・会員数について

強制退会後に再入会を希望される方が6名出た。会員数は全体で増加しており予算内での運営が出来ている。

・平成26年度 中間監査について

11/ 7（金）18時30分より県士会事務所にて実施、問題なし。

#### ●学術部（福留理事）

・研究助成事業

選考臨時基準を設け、若手の育成と今後若手の応募者を推進の観点より、今回に関しては、研究代表者が研究経験や臨床経験などが少ない者を選考した。

研究代表者：水野 健氏

研究課題：精神障害領域に携わる作業療法士の研修会ニーズと参加に関する研究

研究代表者：山本浩輝氏

研究課題：整理整頓、学用品の操作が困難な子どもの作業療法支援に関する研究

#### ●教育部（奥原理事）

##### 1）OT協会生涯教育制度推進担当者会議参加報告

・基礎研修の受講履歴登録が今年度より動きはじめる。受講履歴の登録ができる者を教育部から2名選定し、神奈川県士会でも登録できるように準備を進めていく。

・生活行為向上マネジメント講習会と現職者選択研修（特に老年期領域）との関連：老年期領域には「生活行為向上マネジメントのテーマが1コマ（90分）」あるが、相互乗り入れ的なもの（どちらかを受講すれば他方も受講したことになる）は今のところない。別々に開催してほしい、との事だった。

#### ●地域リハビリテーション部（木村理事）

・生活行為向上マネジメント（仮称）の可算に関する情報

次回介護保険改正より訪問リハビリ部門・通所リハビリ部門で「生活行為改善リハビリテーション」として加算がつく予定。それを見据え来年度計画として生活行為向上マネジメントをどのように取り入れていくか他職種との連携の取り方も含め、今後検討していく。

※紙面の都合で一部割愛・詳細は県士会Webへ（文責：澤口）

## 求人

## 自然豊かな環境でのびのび、 “しっかり”と働いてみませんか！

募集人員：常勤3名  
 応募資格：作業療法士有資格者  
 施設概要：療養病棟216床、精神科病棟256床  
 業務内容：入院・外来患者様へのリハビリテーション（身障・精神・身体・老年期・老健併設など）  
 給与：291,170円（諸手当含む）  
 勤務時間：9：00～17：00  
 休日：隔週休2日、祝日、夏季、年末年始  
 有給休暇20日  
 待遇：賞与年2回（前年実績4か月）社会保険完備  
 退職金制度、5・10年勤続海外旅行神宮球場BOXシート  
 その他：学会・研修会出張奨励ほか  
 交通：JR中央線藤野駅下車  
 専用シャトルバス15分  
 応募：電話連絡の上、履歴書持参でお越し下さい。  
 施設見学も随時お受けします。お気軽にご連絡下さい。

医療法人社団 清伸会 ふじの温泉病院

〒252-0186 神奈川県相模原市緑区牧野 8147-2  
 TEL 042-689-2321 担当/山本  
 FAX 042-689-2325  
 Email j-yamamoto@fujino-hp.or.jp  
 URL http://www.fujino-hp.or.jp

## 求人

## 療法士募集

在宅に興味のある方・意欲のある方大歓迎！！

募集人員：2～3名（OT・PT） 常勤・パート  
 給与：常勤 年収500万以上  
 パート 1件4500円（1時間）

勤務時間：9：00～18：00

※パート週1日・1訪問から可

休日：土・日

応募方法：電話連絡の上、履歴書を持参してください

会社見学随時可能。お気軽にご連絡ください。

問い合わせ先

ケアーズ訪問看護

リハビリステーション瀬谷

〒246-0015 横浜市瀬谷区本郷 4-1-1

TEL：045-304-6633 FAX：045-301-8684

採用担当 城所（キドコロ）

Eメール：info@tasukeainowa.com

HP：http://tasukeainowa.com/

## 求人

## 作業療法士募集

地域に貢献できる在宅医療・介護のお仕事です。

施設概要 ・訪問看護（訪問エリア 町田市、稲城市、多摩市、川崎市麻生区）  
 ・デイサービス（25名から30名）  
 鶴川、平尾、上鶴間本町、南林間

募集人員 常勤2名 非常勤2名  
 資格 OT、PT免許、普通自動車免許  
 待遇 常勤310,000円～  
 非常勤 訪問1件2,640円～4,000円  
 常勤 昇給年1回。賞与年2回。

勤務時間 8：30～17：30 非常勤応相談  
 休日 週休2日、有給休暇、年末年始、夏期休暇  
 福利厚生 各種社保完備、退職金制度あり  
 応募方法 随時電話連絡の上、履歴書持参  
 勤務地 訪問看護 本社（下記参照）  
 デイサービス 鶴川（鶴川駅徒歩20分）  
 上鶴間本町（町田駅徒歩14分）  
 平尾（新百合ヶ丘駅徒歩20分）  
 南林間（南林間駅徒歩10分）

株式会社ぽかぽかライフケア

ぽかぽかりハビリ訪問看護ステーション

〒195-0053 東京都町田市能ヶ谷 4-7-13

電話 042-708-0205 FAX 042-708-0206 担当祝

URL http://www.pokapoka.co.jp/

## 求人

## 作業療法士募集

車椅子での座りきりからレクが楽しめるようになったり、下肢筋力をつけて、近くまで散歩が出来るようになる等、OTならではの視点を尊重します。

募集人数：1名（パート）妊娠のため急募！

資格：作業療法士

勤務内容：デイサービスでのリハビリ

勤務時間：9：00～15：00（時間、曜日応相談）

午前中のみでも構いません。

休日：日・その他シフトによる休み・年末年始・夏休み

待遇：時給 2,500円

勤務地：横浜市南区睦町1-8-3

概要：デイサービス

応募方法：電話またはメールにてお願いいたします。

施設名

むつみの家

連絡先：045-743-6588

担当：管理課 加藤

メールアドレス：kato@clinic.or.jp

URL：http://www.clinic.or.jp



求人

**作業療法士募集**

募集人員：常勤 1名  
 施設概要：病院（150床）一般病棟54床・医療療養病棟96床  
 脳血管リハ（Ⅱ）、運動器リハ（Ⅰ）、呼吸器リハ（Ⅰ）  
 訪問リハビリ  
 給与：当法人規定により優遇します。  
 勤務時間：8：30～17：30 土曜日8：30～12：30  
 休日：4週8休、有給休暇、特別休暇、夏季休暇、年末年始休暇  
 福利厚生：各種社保完備、退職金制度あり、伊豆・千葉保養所あり  
 独身寮（1R）、家族寮あり  
 応募方法：電話連絡の上、履歴書（写真添付）を持参又は郵送してください。  
 交通：JR横浜線 鴨居駅徒歩10分

**医療法人社団 鴨居病院**

〒226-0003 神奈川県横浜市緑区鴨居5-27-10

TEL: (代表) 045-933-1911 FAX: 045-933-6766

URL <http://www.kamoibyouin.or.jp>E-Mail [nanao@kamoibyouin.or.jp](mailto:nanao@kamoibyouin.or.jp)

担当者 総務課 七尾まで



求人

**作業療法士急募**

診療科目：精神科・心療内科  
 住所：〒252-0335  
 神奈川県相模原市南区下溝4378番地  
 小田急線相武台前駅から送迎バスあり  
 JR相模線下溝駅から徒歩10分  
 電話番号：042-778-0200  
 募集人員 若干名 常勤  
 待遇 当院規定により  
 昇給年1回。賞与年2回（昨年度実績）  
 交通費全額支給、退職金規程有、  
 社会保険完備  
 給与 244,000～268,000円  
 （諸手当含む。家族手当等当院規程によりあり。）  
 勤務時間 9：00～17：00  
 （部署により12：00～20：00勤務もあり）  
 休日 4週7休、有給休暇、夏期休暇（3日）、  
 年末年始（5日）、特別休暇等  
 応募方法 随時電話連絡の上、履歴書（写貼）持  
 参又は郵送下さい。

**医療法人社団 博奉会 相模ヶ丘病院**

問い合わせ先 採用係

ホームページもご覧ください

URL <http://www.hakuhou-kai.or.jp>**第15回 神奈川県作業療法学会 プログラム案内**

## ●シンポジウム

## ・身障領域

テーマ「今、注目の治療法～最新研究に基づく上肢麻痺のリハビリテーション～」

座長：林 純子 先生（済生会神奈川県病院）

「リハビリと作業療法と上肢機能」

シンポジスト：田邊 浩文 先生（自衛隊中央病院）

「作業が脳を変化させる」

大郷 和成 先生（新戸塚病院）

「脳卒中片麻痺への新たな治療法 ー促通反復療法の理論と実際ー」

## ・精神領域

テーマ「精神障害のある方への生活支援～病院から地域へ～」

座長：棚澤 直美 先生（川崎市健康福祉局）

「地域支援からみえてくる作業療法士の役割」

シンポジスト：森園 晋 先生（指定訪問看護 アットリハ）

「訪問看護事業所における精神科訪問看護の実際」

安藤 辰雄 先生（日吉病院）

「早期退院を目指して～リハビリテーションパスを実施して～」

## ・発達領域

テーマ「一貫性と継続性のある支援体制の構築に向けて、OTができること」

座長：小泉 雄一 先生（たすく株式会社）

「アセスメントを中心にした家族との協働療育」

シンポジスト：松本 政悦 先生（横浜リハビリテーションセンター）

「地域におけるOTの役割～作業療法の「継続性」と「一貫性」～」

前田 智恵子 先生（武山養護学校）

「教育現場で働くOT」

詳細はウェブもご覧ください。 [kana-ot.jp/congress/kaot15th/](http://kana-ot.jp/congress/kaot15th/)



## 手作り おもしろdevice・activityコンテスト

第15回神奈川県作業療法学会では「手作り おもしろdevice・activityコンテスト」を行います。学会参加とともにみなさんのアイデアもぜひご応募ください！  
応募作品は来場者による投票を行い、学会へ開会式で入賞作品の発表を行います。

作品は「自助具」「治療訓練機器」「作業療法で製作し

| 区 分         | 内容について               |
|-------------|----------------------|
| 自助具         | 食事や整容、排泄など日常生活活動の自助具 |
| 治療訓練機器      | 作業療法の訓練効果が説明できる機器    |
| 作業療法で製作した作品 | 作業療法効果が説明できる作品       |

た作品」のいずれかの区分を1作品をお受けします。  
また応募作品は、製品化されていない、他のコンテストに応募していないものとします。

お一人でもグループでも応募可能ですので、同僚や友達とアイデアを出し合いながらの応募も可です（^^）  
募集要項はこちら

学会ホームページ<http://kana-ot.jp/congress/kotc15th/>  
「手作りおもしろdevice・activityコンテスト」

お問い合わせ先

学会機器展示班 oubo.contest@gmail.com

締め切りは平成27年2月末日です、お早目に！

## 編集後記

とうとう神奈川県学会が再来月に控えております！  
神奈川県の作業療法が盛り上がる祭典です！  
皆様ふるってご参加下さい！

今後もしっかりと情報を掲載させていただきたいと思いますので、宜しくお願い致します。

山岡

## 休会制度ができました

詳しくはwebを見てね！ <http://kana-ot.jp/association/recess.htm>

申請の締め切りは1月31日まで！！



一般社団法人 **神奈川県作業療法士会ニュース** <171号>2015年1月発行（年6回発行）

発行責任者 渡邊愼一

編集責任者 出口弦舞

編集担当 小峰一宏（イムス横浜狩場脳神経外科病院）

山岡洸 / 岩瀬このみ / 桜井大和（佐藤病院）

印刷 発送 第一資料印刷株式会社

〒231-0011 横浜市中区太田町 4-45 第一国際ビル 301号 TEL/FAX：045-663-5997

月火水木金 10：00～16：00 メールアドレス：jimu@kana-ot.jp

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト <http://kana-ot.jp>

作業療法 神奈川

検索

Facebook <https://www.facebook.com/kaotwebkan>

Twitter <https://twitter.com/kaotwebkan>

